

【高森台中学校】小中学校の適正な規模等に関する意見交換会 議事録

1 開催日時

令和7年10月22日（水）午後6時30分～午後7時25分

2 開催場所

高森台中学校 武道場

3 参加者数 12名

【事務局】

春日井市教育委員会		部長	森本 邦博
〃	学校教育課	主幹	梶田 傑
〃	〃	指導主事	田中 秀治
〃	〃	課長補佐	深見 健司
〃	〃	主査	安田 和志
〃	〃	主事	杉山 太一

4 議題

高森台中学校区における小中学校の適正規模及び適正配置に向けた検討について

5 会議資料

小中学校の適正規模及び適正配置に向けた検討について（高森台中学校）

午後 6 時 30 分 開会

1 開会

教育部長あいさつ

2 議題

- (1) 高森台中学校区における小中学校の適正規模及び適正配置に向けた検討について

【事務局】

<本市の基本的な考え方とこれまでの取組について>

- ・児童生徒数は全国的な少子化の進展に伴い減少を続けており、本市においても、同様に減少していくと推定される。子どもたちにとってより良い教育環境を実現するために、学校の適正規模や適正配置について検討を進める必要がある。
- ・学校規模の区分について、本市では今年 2 月に「小学校・中学校の適正規模の基本的な考え方」を策定し、その中で、規模が小さい学校について、クラス替えができるかどうかの視点から学校規模の区分を設けた。
- ・クラス替えが可能であれば、児童生徒同士の間関係に配慮した学級編成ができることや、集団の中で社会性を身に付けたりできるなど、子どもたちにとって多くのメリットがあることから、本市では、小学校、中学校ともに 1 学年に 2 学級以上あることが必要であると考えている。
- ・どの学年もクラス替えができない「過小規模校」や一部の学年でクラス替えができない「小規模校」について、過小規模校を優先に、適正規模の確保に努めるように検討することとしており、「坂下」「藤山台」「高森台」「石尾台」「岩成台」の 5 つの中学校区にある学校を最優先に検討を進めている。
- ・これまでの取組として、令和 7 年 4 月から 5 月にかけて、対象校区の小中学校 17 校の P T A 役員の皆様への説明と意見交換を実施した。その後 5 月から 6 月にかけて児童生徒やその保護者の皆様に、6 月から 7 月にかけて、地域にお住まいの方を対象にアンケートを実施した。

<児童生徒数推計について>（資料 1 ページ）

- ・昭和 53 年度から令和 19 年度までの、高森台中学校の生徒数の推移は、昭和 58 年度の 1,282 人をピークに、令和 19 年度では 88.5%減少の 148 人と推計される。

- ・高森台中学校は、今年度、生徒数 285 人、9 学級で、学校規模は、小規模だが全学年でクラス替えができる「やや小規模」である。令和 13 年度、19 年度、22 年度と、生徒数、学級数ともに減少し、令和 22 年度では、クラス替えができない学年がある「小規模」とであると推定される。
- ・高森台小学校は、今年度、児童数 222 人、10 学級で、学校規模は「小規模」である。今後は、児童数、学級数ともに減少し、令和 22 年度では、全学年でクラス替えができない「過小規模」とであると推定される。
- ・中央台小学校は、今年度、児童数 153 人、6 学級で、学校規模は「過小規模」である。今後、児童数はさらに減少し、「過小規模」のまま推移すると推定される。
- ・東高森台小学校は、今年度、児童数 122 人、6 学級で、学校規模は「過小規模」である。今後、児童数はさらに減少し、「過小規模」のまま推移すると推定される。

<アンケート結果について>（資料 2～5 ページ）

- ・「1 学年に 2 学級以上となるように、学校の適正な規模や配置に市が取り組むことについて」の質問では、高森台中学校では、「賛成」の方の割合が保護者で 54.9% となっている。地域の方のアンケート結果は、小学校単位で取りまとめを行っていることから、高森台中学校区の小学校の回答を集計した「全体」を見ると、73.4% の方が賛成と回答している。

「反対」の方は、保護者で 9.0%、地域の方で 12.8% である。反対の理由として、保護者の方は「登下校の時間や方法」を心配する方が多く、地域の方は「環境変化による子どもたちへの影響」を多くの方が心配している。

- ・先ほどの質問に対して「賛成」と回答した方のうち、「ご自分の子どもが通う学校、またはお住まいの地域の学校が適正な規模や配置となるように取り組むことについて」では、高森台中学校、全体ともに「賛成」の割合が、保護者、地域の方のいずれも高い比率となっている。賛成の理由として、保護者の方は「集団活動における適応能力が磨かれるから」や「子どもの人間関係に良い影響を与えるから」と考える方が多く、地域の方は「子どもたちがより良い教育環境で学校生活を送れるようになるから」と多くの方が考えている。
- ・学級数については、保護者の方、児童生徒ともに 1 学年に複数学級が望ましいと考えている方が多く、クラス替えを契機に新しい人間関係を構築することができると考えている。

高森台中学校では、回答された全ての保護者の方が、また、生徒の 97.0% が複数学級を望ましいと考えており、高い比率となっている。

- ・「学校生活において重要と思うこと」では、児童生徒は、「体育大会などの行事でクラスに活気があること」や「クラス替えができて、新しい友達がたくさんできること」、「みんなで相談しながらいっしょに勉強ができること」が大事だと考えている。地域の方は、「多くの子どもたちによる人間関係の広がり」や「子どもたちの登下校」が重要と考えている。
- ・「魅力ある学校づくりを進めるため、学校の規模や配置を見直す場合に重要と思うこと」では、保護者の方は、「子どもの人間関係に広がりがあること」や「子ども一人ひとりの状況に応じたきめ細かな教育」が重要と考えている。地域の方は、「子どもたちがより良い教育環境で学校生活を送れること」をととても多くの方が重要と考えている。
- ・「学校の適正規模等の取組において心配なこと」では、保護者の方は、登下校に関して心配と考えており、登下校については、安全性や時間が重要と考えている。

＜本市の考え方について＞（資料6 ページ）

- ・「児童生徒数推計」から、令和22年度では、高森台中学校はクラス替えができない学年がある「小規模」であり、中学校区内の全ての小学校は、全学年で学級数が1学級の「過小規模」であると推定される。
 - ・「アンケート結果」からは、学校が適正な規模や配置となるように取り組むことについて、賛成意見が多く、複数学級を希望する意見が多い。保護者は、子どもの人間関係に広がりがあること、児童生徒は、行事でクラスに活気があることや、クラス替えで新しい友達がたくさんできること、地域の方は、子どもたちがより良い教育環境で学校生活を送れることが重要と考えている。一方で、学校の規模や配置を見直す場合に、多くの方が登下校に関し心配している。
 - ・「地域の特性」として、ニュータウン地区内で、高森台中学校区は、石尾台中学校区、藤山台中学校区、岩成台中学校区と接しており、高森台中学校は、直線距離で、石尾台中学校から約1.1 km、藤山台中学校から約1.5 km、岩成台中学校から約2.3 kmの距離に位置している。
 - ・「児童生徒数推計」「アンケート結果」「地域の特性」を踏まえ、本市としては、高森台中学校区の小中学校が適正な規模や配置となるように、具体的な検討を進めていきたいと考えている。
また、検討にあたっては、次のことに留意をする。
- 1 高森台中学校については、「小規模」になると推定されること、また、小学校については、各小学校の児童数推計から、児童数の減少が今後も続くと推計されることから、隣接する中学校区とあわせた検討も視野に入れる必要がある。

- 2 登下校の安全性や時間を心配する方が多いことから、バスの利用など通学手段についても検討する必要がある。

3 意見交換

【質問 1】

小牧市でも統廃合の話があり、2年後の開校を目指しているとのことだった。春日井市の統廃合の話はどれくらい後の話なのか。

【事務局】

本市の取組としましては、第1段階として意見交換会を開催して、各地域の保護者や地域の方の意見をお聞きしているところで、統合などの具体的なスケジュールについては未定となっています。皆様との意見交換を重ねて、今後どのようなスケジュールになるか決めていきたいと考えています。

【質問 2】

他の学校の意見交換会でよくある質問として、3つの学校が統合しても、小規模校の解消にならないという意見がある。高森台中学校で考えたときに、他の学校と合算するとどのような数字になるのか。

【事務局】

例えば、高森台中学校と石尾台中学校の合計の推計値を見てみますと、令和13年度では生徒数519人、各学年5学級の15クラスになります。令和19年度では、生徒数273人、各学年3学級の9学級、令和22年では、生徒数238人、学級数は1年生で3学級ですが、2・3年生は2学級の7学級になると推計されます。

【質問 3】

仮に統合するとなると、既存の中学校に統合するのか、新たな校舎をつくることになるのか。

【事務局】

仮に統合する場合は、学校施設の利用について様々な選択肢があります。既存の施設を使う場合は工事の期間が少ないため、開校までの時間が短くなりますが、新しい学校施設を作る場合等は、設計と工事の期間をあわせて5年くらいかかると考えています。皆さまにこれらの情報を提供させていただいて、学校施設の在り方を議論していきたいと考えています。なお、ニュータウン地区では、学校施設を建てるために土地を取得することは現実的ではなく、既存の学校施設の土地を使うことになると思います。

【質問４】

統合については、建物の年数、施設の老朽化についても考慮する必要がある。既存の施設をそのまま使う場合は、トイレの改修、空調機の設置についてもしっかり整備するのか。

【事務局】

具体的な取組は決まっていますが、各中学校で築年数が異なるため、状況に応じて整備する必要があると考えます。体育館の空調機整備は現在進めているところで、トイレについては老朽化が進んでいるため整備する必要があると考えています。

【質問５】

空調の話について、小学校にしても中学校にしても災害時は体育館が避難所になるので、空調があることは大事になる。今後、夏がどれだけ暑くなるかはわからないが、空調設備は大事だと思う。

【事務局】

体育館の空調については、中学校から順次整備し、小学校についても早い段階で整備を進めることとしています。学校の統合等の取組に関わらず、進めていくこととしています。

【質問６】

今回の取組について、地域の人たちが、市にお任せではなくて、自分たちのこととして意識することが大事だと思う。そのためにも、意見交換会に多くの方が参加して意見交換を積極的に行う必要があると思うので、保護者や高齢者が参加しやすい時間帯で意見交換会を開催することが必要だと思う。

【事務局】

意見交換会にたくさんの方に参加していただいて、様々な立場から意見をいただきたいと考えています。今回は平日の夜間の時間帯で開催しましたが、今後、意見交換会を開催する場合は、土曜日、日曜日の日中の時間に開催するなど、皆様が参加しやすい時間帯を設定したいと考えています。

【質問７】

高森台地区だと高森台テラスが整備され、小さい子どもが増えて、にぎやかに感じる。また、今後も整備が進んでいくと思うが、推計値はどうか。

【事務局】

高森台地区では、高森台テラスの入居が始まり、未就学児の子どもがいる世帯も増えています。高森台小学校の令和 13 年の児童数推計にはその社会増も加味しています。今後も再整備が進み、公表されれば推計値に入ってくるものと考えています。

【質問 8】

仮に統合する場合には、学校跡地の利活用についても合わせて検討した方が、防犯などのまちのポテンシャルにも良い影響があると思う。

【事務局】

跡地については大事な問題だと考えています。教育委員会としては、子どものための教育環境の整備を第一に考えることとし、合わせて跡地についても検討できる体制をとっていきたいと考えています。

4 今後の進め方について

【事務局】

- ・まずは、本日開催している意見交換会を高森台中学校区の各小中学校で開催し、その際にいただいたご意見などを取りまとめた上で、次は高森台中学校区の単位で、年内に 2 回目の意見交換会を開催したいと考えている。
- ・その後、高森台中学校区で保護者や地域の代表の方、また、学校関係者などで構成する、学校づくりを検討するための組織を立ち上げ、学校の適正規模や適正配置について、具体的な検討を行っていきたいと考えている。
- ・次回の意見交換会の日程は、市ホームページでお知らせするほか、保護者の方へは Home&School で、地域の皆様へは回覧板でお知らせする。

5 閉会

午後 7 時 25 分 閉会